

チーフストラテジスト

瀧山裕二の
Weekly Letter

緊急

第30回「日本株式市場急落について」

8月に入り、日本をはじめとする各国の株価が急落しました。

急変した要因と今後の市場動向などについて私の考えをまとめました。

～世界の株価急落～

8月5日の日本株式市場では、株価が急落し、日経平均株価は4,451.28円安の31,458.42円となり、騰落率は-12.4%となりました。その後、世界各国の株式市況も値下がりしています。

主要株価指数の7月末から8月5日までの騰落率は以下の通りです。

日経平均株価：-19.5%、TOPIX（東証株価指数）：-20.3%、ニューヨークダウ：-5.2%、NASDAQ総合：-8.0%、ドイツDAX株価指数：-6.3%、インドSENSEX：-3.6%。

この世界的な株価下落には2つの要因があります。一つ目は、7月31日の日銀金融政策決定会合で政策金利が0.25%に引き上げられ、その後の植田総裁の記者会見で、これまでと違って金利引き上げに積極的な姿勢が見られたため為替市場で円高が進みました。さらにこの日銀総裁の発言がインフレ状況にはいった日本経済をデフレ状況に巻き戻すのではという懸念が大きくなり、日本株の急落につながったと考えます。

二つ目は8月2日に発表された米国雇用統計が市場予想を下回り、米国景気後退論がにわかに強まり、米国株式市場は下落しました。為替市場でドル安円高がさらに進み、為替の影響を受けやすい輸出企業が売られ、日本株全体が大きく売られる状況となっています。

～今後の国内株式市場、為替市場動向について～

今後の投資環境につきましては、今回の下落により日経平均株価の株価収益率（PER）は8月5日現在で13.0倍（25年3月予想）と割安な水準にあります。また、為替市場での過度な円安の修正により、輸入物価の上昇が一服し、賃上げ効果が顕在化することで国内需要が押し上げられる効果も見込まれます。また、日本経済のインフレ状況は、これまでのような激しいものではないものの、緩やかなインフレ状況は続くと想定しています。

裏面のグラフ1をご覧ください。このグラフは日経平均株価（週次）のグラフですが、今週末の値として8月5日の引け値を入れています。このグラフを見ると2023年6月から11月まで33,200円～33,700円程度でもみ合っていますが、この水準が上値抵抗線にもなり下値抵抗線にもなると思います。この水準を上抜ければ下値抵抗線になると考えます。その後、年末に向けて慎重な企業業績の上振れなども考えられるため、38,000円～39,000円程度までの戻りを試す状況になると想定しています。

次にドル＝円相場ですが、グラフ2をご覧ください。こちらも週次のグラフで、今週末の値として8月5日の東京市場の引け値（1ドル＝143.47円）を入れています。このグラフから見れば、昨年末が141.39円であり、2022年秋口での政府・日銀の為替介入が150円程度で入っていることから、145円±5円程度で推移すると想定しています。

今年から始まった新NISA制度を利用して初めて資産運用を開始されたお客様はもちろん、長年資産運用を行われているお客様にとっても、今回の株式市況の急落は資産運用の先行きに対して不安を持たれたと思います。ただ、年初からの日本株の上昇は日本の経済状況を反映したものであったと考えますし、その状況は全く変わってはいないと考えています。今後も日本経済のデフレからの脱却、そして経済成長への回帰の動きは続くでしょう。この将来にわたる成長を享受するために、時間をかけて投資することが肝要です。

多くの方々が新NISA制度で利用されている「積み立て投資」は、価格が下がった時に数量を多く購入でき、結果として買い付け単価を引き下げることが出来ます。そのため価格が買い付けを開始した時より下がっていても収益を上げられる可能性が高くなります。また、個別株への投資でも時間をかけることで企業の成長を享受できる場合が多いです。是非、余裕資金で時間をかけた資産運用を行うことで、経済成長の恩恵を享受していただきたいと思います。引き続き宜しくお願い致します。

尚、このレターをもって今週末のウィークリーレターとさせていただきます。(2024年8月7日 記)

グラフ1



グラフ2



(グラフ1・2 西村証券 作成)